

令和元年11月20日

令和元年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和元年 11 月 20 日（水曜日）午後 2 時から

### 1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	

### 2 出席職員（11名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	杉 山 良 樹
教育施設担当課長	鈴 木 龍 一
副参事（教育地域力担当）	元 木 重 成
副参事（施設調整担当）	荒 井 昭 二
学務課長	政 木 純 也
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩 崎 政 弘
副参事	早 川 隆 之
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪

### 3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

~~~~~  
(午後 2 時00分開会)

○教育長

ただいまから、令和元年第11回教育委員会定例会を開催いたします。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に高橋委員を指名いたします。よろしいでしょうか。

○高橋委員

はい。

○教育長

よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

本日私からは、この秋、周年行事と研究発表会がありましたので、それについて報告させていただきます。

まず、周年行事につきましては、10月19日に都南小学校、それから10月19日、やはり同日ですけれども東蒲小学校、そして、11月16日に馬込第三小学校、11月16日、やはり同日に蒲田小学校の周年行事がありました。

まず、10月19日の都南小学校の周年行事でございますけれども、都南小学校は、割と小さな規模の学校でございます。印象といたしましては、大変に子どもたちが素直で、しっかりと式典に参加していたと思います。

周年行事等では、学校と地域との関わりの深さを改めて確認したところですが、子どもたちがしっかりと話を聞いている姿、それから最後には、1年生から6年生までが全員入場してきて歌を歌うというような、本当に和やかな式典でございました。

私が都南小学校のこの式典の中で一番強く感じたことは、その式典の後の交流会でございます。6年生が式典に参加された方を招いていただいて、私も6年生の教室に招かれて交流しました。6年生が自分たちで勉強した歴史かるたをつくって、私と一緒にいただいて歴史かるたをやりました。男の子1人、女の子3人のグループに入ったのですけれども、実はそのグループが和やかに、相手を思いやりながらかるたを進めていく姿はとても印象的でございました。歴史かるたですので、6年生で勉強した歴史上の人物を取り上げてやっていくのですけれども、非常に歴史が好きで、初めから何枚も取ってしまうようなお子さんもいまして、私も負けずに頑張ったのですけれども、そのかるたを進める中で、男のお子さんが織田信長のかるたのときにそれを取っていたのですけれども、とても強いお子さんは、その子に何とかかるたを取らせようとして、目配せをして、ここにある

ぞというような合図を送っていました。初めは気がつかなかったのですけれども、それを取って、うれしそうにしておりました。

それから、私の右隣にいた女のお子さんはいつもにこにこしているのですけれども、なかなかかるたを取れませんでした。読む番になると、なかなかつかえてしまうのですね。ただ、かるたが得意な子に聞くと、こう読むのだよというような優しい心遣いがある、にこにこしながら、最後までかるた取りができました。

お話を聞くと、3年生のときは2クラスだったのですけれども、ずっと単学級でやってきて、本当に小さいときから友達のことをよくわかって、兄弟のように育ってきているのかなと思いました。

人に対する思いやりと気遣いがある、その中で育ってきている和やかな子どもたちの笑顔というのですか、雰囲気になじぶりに接したような、温かい思いをいたしました。それは、やはり都南小学校が持っている伝統というのですか、子どもたちを大切にしている地域の方が子どもをしっかりと見ていく、また、子どもも、その地域の方、親御さん、教員、先生方を信じているというのですかね、そういう一つの形かなと思い、非常に感銘を受けました。

それから、馬込第三小学校の80周年、それから蒲田小学校の140周年は先日の土曜日でありましたが、二つの学校とも非常に歴史を感じるというのですかね、地域の歴史を感じました。

馬込第三小学校は、校歌が詩人の室生犀星の歌詞でありまして、室生犀星の離れがあそこの馬込第三小学校にあります。いおの部屋というのがある、当時の馬込文士村の資料がたくさん残っているところがございます。そういう中で、地域の方々の温かい思いの中で、そういう伝統を受けながら子どもたちがしっかりと育っているきずなが大変印象的でした。

また、蒲田小学校は140周年ですね、最も歴史のある学校の一つでございますけれども、蒲田の町の発展とともに蒲田小学校が統一できたのだということがよくわかりました。蒲田小学校も、キネマの展示というか、蒲田の映画の文化を発信するような影響を受けて、そこで蒲田小学校でつくっていた動画が大変よくできていて、やはり蒲田は映画の都だなと思いました。

蒲田小学校の歴史を見ますと、校歌が、山田耕筰作曲、北原白秋作詞と、これも非常に歴史のある、すばらしい校歌でございました。私が印象に残ったのが、生徒たちも非常に大きな声で歌っていたのですけれども、右側に座っている同窓生のOBたちが、その声に負けずに大きな声で歌っていて、やはり郷土を、学校を愛する気持ちが本当に強く残っていました。

蒲田は、新ゴジラなど映画の文化がありますけれども、非常に学校の歴史とともに、子どもたちがそこで座っている義務教育の今までの教育力というのを強く感じたところがあります。

それから、大森第一小学校は研究発表会がございました。こちらはSDGs、ユネスコスクールのように、持続可能な教育ということで取り組んでございます。教科を超えて環境問題に取り組んでいるという取り組みが、非常に印象的でした。

大森第一小学校では、ふる浜に行って、プラスチック問題について取り組んでいる様子

が見られました。ふる浜には海苔の博物館が大変立派なものがありまして、かつての海苔の歴史を感じさせられます。141 周年といたしますと、大田で最も古い学校の一つでございますけれども、そういう歴史のある学校が、新たな未来に向けて持続発展可能な教育に取り組んでいるというのは、すばらしいことであると思いました。

また、大森第三中学校は、不登校の対応について取り組んでおりますが、これは不登校を生まない学校づくりで、予防的な取り組みを各教科でやっております。非常に丁寧に取り組んでいらっしゃるって、週 1 回は学校の中で不登校に対しての委員会を開いてございます。月に 1 回は地域の方をお招きして、民生委員の方とかスクールソーシャルワーカーの方とかを招いて、1 回、丁寧に一人一人の子どもの状況について取り組んでおります。

不登校につきましては非常に、現在、全国的にも大田区でもやや微増というのですか、少しずつ増えてきている、かなり難しい問題もございますけれども、本当に丁寧に取り組むことで、大きな成果を上げているというところがございます。

大森第三中学校の授業を見ますと、従来、中学校は、割と講義形式で先生の話の聞くというケースが多かったのですが、グループで話し合うとか、討議をするなど、関わりを大事にした授業でございまして、また新たな取り組みといたしますか、大田区の全校で担っていただきたいと感じました。そういう意味で、大変に参考になる研究発表であったかということでございます。

以上、私のほうは、周年行事と研究発表会について報告させていただきました。

私からの報告は以上でございますけれども、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

#### ○深澤委員

今、教育長からのお話にあった馬込第三小学校 80 周年の周年行事の祝賀会に参加させていただきました。

今お話があったように、馬込第三小学校の校歌は室生犀星が作詞をしたということですが、祝賀会には孫の室生洲々子さんが金沢から、周年行事をお祝いするために駆けつけてくださりまして、いろいろお話を聞かせていただきました。

大田区の小学校では、馬込第三小学校と萩中小学校、馬込小学校が、室生犀星が校歌を作詞したそうです。金沢でも 40 校くらい校歌はつくられていたようで、いろいろなところでお声がかかるなんてお話もされていまして。

あと、馬込第三小学校には、室生犀星が使っていた離れを 60 周年のときに移築したいおの部屋が学校の敷地内にあります。移築当時の校長先生が移築したときの苦労話であるとか、何でいおの部屋という名前を付けたのかというような、当時の先生でないと分からないようなお話をしてくださりまして、記念誌を読むだけではわからない馬込第三小学校の歴史を、皆さんが色づけ非常に華やかにしてくださって、人のつながりというところがこういうところで生きてくるなということを感じました。

非常に和やかで、また P T A のお母様方が大変礼儀正しく私たちをもてなしていただきまして、楽しい会でした。

以上です。

## ○高橋委員

私は 11 月 3 日に、大田区ハイドン室内管弦楽団の演奏会に、中山美房元校長先生が今もチェロの演奏をされていることを知って行かせていただきました。32 年の歴史ということで、大変人気の高い演奏会で今回はウィーンからヤン・リスカさんのチェロの独奏があり久しぶりに演奏会に伺ったのですが、音色に感動して、すばらしい時を過ごさせていただきました。

研究発表会は 4 校行きまして、大森第一小学校ですが、明日につなぐ私たちにできることということで、大森第一小学校は教室がオープンになっておりまして、参観がとてもしやすく、子どもたちも伸び伸びしている印象を受けました。

ゲストティーチャーから、伝統とか環境、町、大森の海苔ということ子どもたちは自分事として発表し合い、意見交換もしていました。

先生方は、全学年 ESD カレンダーをつくって授業に取り組んでいる様子が冊子から見られました。

ESD ルームというものがつくられていて、海のゴミについてなど、その中で体験することによって学習ができるようになっており、とてもいい取り組みだと思いました。

11 月 12 日の大森第三中学校は、不登校を未然に防ぐための学校づくりでした。授業では、役割を決めて全員が話せるとか、グループで話し合い、教え合いをする工夫がありました。研究発表では、副担任の仕事が紹介されていて、とても重要な取り組みだと思いました。支援員と連携し合い、地域の方たちも情報共有し、支援内容、方法の検討をしていました。

氏家先生の講演では、日頃から強い人間関係を築くこと、大切なのは話を聞き、受け入れることだというお話がありました。とても心に残りました。

11 月 18 日の田園調布小学校は、「かかわり合いで学びを深める」でした。意図を明確にした話し合いや、教科の狙いに迫るやりとりなど、全学級学び合いができていて、すばらしいと感じました。

昨日 11 月 19 日ですが、道塚小学校は算数科の授業改善でした。筋道を立てて説明し合い、自分の考えを発表したりしていました。児童が考えているときに回りながらチェックしている先生もいて、よく見ていただいていると安心いたしました。算数カフェ、算数広場の掲示、階段の掲示など、算数に親しむ工夫がありました。最後の分科会は、授業に実践できる講義でした。

どの学校も子ども目線で、個々の考えを尊重する研究発表でした。先生方のやりがいを感じられ、とてもわかりやすい授業になっていました。

## ○後藤委員

後藤でございます。私も、周年行事と研究発表会に行かせていただきました。

10 月 19 日には、東蒲小学校の 60 周年の祝賀会に参加させていただきました。大変和やかで、温かい会だったなという印象を受けた周年行事でした。中でも、先生方が、有志ではあるのですが、楽器で曲を演奏してご披露くださりまして、保護者の方々は曲に合わせたダンスで、一緒ではなく別々なのですけれども、2 展開という形で、大変楽しいプログラムで楽しませていただき、参観されている方々も終始和やかで、笑顔が絶えない祝賀

会だったなと思っております。

11月2日には、志茂田小学校の60周年の式典と祝賀会に参加させていただきました。こちらでは、式典のほうで校長先生がお話くださったのですが、大変印象深いお話をたくさん伺いまして、中でも、良かったことについてお話しくださいました。その良かったことという視点の中には、常に子どもが校長先生の目線の先にあり、日ごろの日常生活の中でも、校長先生が本当に終始子どもたちをよく見てくださっているなという内容のお話でした。例えば、今日は欠席がゼロで、先生は本当にうれしかったですであったり、少し元気のない子どもたちがいるときには、上級生が励ましていたねというような、先生がとてもよかったと思ったという話を所々にちりばめて、普段からお話ししてくださっている校長先生であります。その校長先生の手法が、式典、それからPTAが主催なさった祝賀会にちりばめられており、大変すてきな周年行事でありました。私もとてもうれしい気持ちになって帰ってまいりました。

11月12日には、大森第三中学校の研究発表会に伺ってまいりました。こちらは、先ほど先生方がお話くださいました内容でして、特に私が印象に残った点をお話いたしますと、3年生の授業の中で、中学生と家族との関わりという授業の内容で、これからの私たちと家族というテーマに合わせた授業の中で、ロールプレイングの授業が行われていました。こちらのほうは、先だつての教科書採択などのときに、中学生が実際授業でロールプレイングというのはどんなものかというような議題も教育委員の中ではあがりまして、私もいろいろ勉強させていただきましたが、実際、授業を見ますと、子どもたちは恥ずかしがりながらも、楽しく挑んでいたという点が大変印象的でありました。中でも、そこでサポートといいますか、助言をしてくださる先生、指導くださる先生の、恥ずかしがらずに演じることが大切なのですよという言葉、それから、授業の後はこのロールプレイングに関わった役割を話題にしないことという2点に絞って注意をきちんと授業の初めにすることで、子どもたちがロールプレイングをする授業の視点と楽しさ、それから、授業の後の感想ということまで認識づけられ、大変子どもたちにはわかりやすい授業だったかなと思っております。

関わり方ということでしたので、ペアで授業を受けたり、3人、4人、それから6人1班でということ、どのクラスも大変よく授業を集中して行っていたという印象でありました。

11月18日には、田園調布小学校の研究発表会に伺いました。こちらに関わり合いで学びを深めるというテーマに合わせた研究発表でして、先ほど先生方がおっしゃっていただきましたので、印象に残った点だけお話させていただきます。

協働する力、批判的思考力、認知的能力、それから非認知的思考力といったようなバランスの取れる教育、バランスよく育てることが大切という講演会での細川先生のお話もありましたように、授業の中にそれぞれ、大変バランスのいい試みが施されていたという印象がございます。協働する力ということで、子どもたちが関わりをもちながら、友達、それから先生と日々過ごしていくということは難しい点もあるのではないかと私の中では思っているのですが、授業の中で施されていることをもとに、子どもたちは日ごろからこのような取り組みに携わることで、協働する力が育って行くということを目の当たりにした研究発表会でございます。

細川先生が講演会でもおっしゃられておりましたが、なぜ協働する力が重要なのかという視点に関しまして、チームであることが大切なのではないかというお話がございました。大人になって仕事をするとき、子どもたちの関わり合い、それから、家族での関わり合いの中でも、新しいアイデアなどが生まれるのは、いつも一人ではないのですよという話でした。チームの中から生まれる、そのようなことから、協働するという楽しさと必要性、それから、重要性があるのではないのでしょうかというお話を伺いまして、大変こちらも勉強になりました。

こちらの学校では、子どもたちにそのような協働する必要性と力ということを育てていただいているなど大変感謝して、帰ってまいりました。

11月19日には、道塚小学校の研究発表会に伺わせていただきました。こちらは「自分の考えをもち、学び合う児童の育成」という研究テーマでした。まず、解決の見通しを持つということ、それから筋道を立てて説明し合うということ、それを広げて深めていく深い学びというところにつなげていく視点に関して、授業を行って、研究を行っていただきました。

授業の中でも大変よく子どもたちが集中し、楽しく授業を受けているという印象が大変印象的でした。子どもたちの様子、先生の指導している様子がとても一致しているといえますか、子どもと先生が一体となって授業に向かっているというのが、大変印象的な授業でした。

認め合うこと、それから学び合うこと、それから意見が分かれることが大切なのですよというお話も講演会の中ではございまして、意見が分かれるからこそ考える力が育つ、考えて、みんなではっきりさせて答えを導いていく、そういうことが大切なのですよというお話でした。

これから未来を生きる子どもたちには、先を見通し、話し合いを通して判断をし、決定していくということが、とても大切なことだなと私も感じております。

この学校の研究発表会を通して、子どもたちは日ごろからこのような力を育み、そして、未来に向かって育っていくのだなという大変明るい印象を受けました。

それから、規範意識の問題ですが、大変こちらの学校は規範意識に溢れているという印象を受けました。例えば階段の掲示ですが、算数の研究授業ということで、目に見える視覚的な要素を大変多く取り入れており、長さや距離といったことがたくさん示されておりました。階段の掲示に関してはいろいろな学校で取り組んでいただいていることですが、こちらの学校は、階段以外の掲示物にも大変目を凝らす工夫がなされておりました。先生方もよく研究されて、子どもたちに教育をしてくださっている、そんな印象でありました。

芸術の秋ということで、10月30日には、志茂田中学校の合唱コンクールに伺いました。こちらは、私も、PTAの会員ということで、PTAコーラスの中で、先生方と一緒に歌を歌わせていただきました。子どもたちは大変レベルが高い学校でして、こんなにレベルが高い学校があつていいのかなと思うほどレベルの高い演奏を聞かせていただきました。合唱コンクールに向かう練習の姿勢、それから、友達の演奏を聞く姿勢といった、大変よい姿勢が感じられた賢明な姿に関心をした一日でありました。

11月16日には、中学校PTA連合会のほうで、音楽祭というのが池上会館でございました。第41回ということで、大変長く歴史を刻んでおられる会だなということで、こち



らは、指揮者の先生のピンチヒッターとなりまして、私は、志茂田中学校で指揮を振らせていただきましたが、どの学校も大変一生懸命、それから楽しく、たくさんの校長先生がたくさんの仮装をなさって会を盛り上げて下さり、とてもすばらしい歌を披露していただいたという印象です。

私からは以上です。

#### ○弘瀬委員

弘瀬です。残念ながら研究発表会には都合がつかず、出席できませんでしたが、今、不定愁訴で来ている中学校の2年生と中学1年生の生徒さんがおります。二人とも、いろいろな訴えをされており、よくよく話を聞くと、4月から1日も学校に行っていないということでした。二人とも、家庭にいろいろな問題がありますが、お母さんとの関係は非常にいいし、来院時不定愁訴は多いものすごく明るいのです。何が問題になっているのかというのは、まだ直接はうまく聞いていないので、これから少しずつ聞かなくてはならないと思っています。

またこの時期によくあることですが、合唱コンクールの前々日ぐらいに喉が腫れて熱を出しているが、合唱コンクールにはどうしても出たいので治してほしいというようなことでいらっしゃるお子さんがいます。熱を出されたお子さんに関しては、できるだけことはしますが、コンクールの日までに治るかどうかは難しいとお話しします。それから、喉を腫らしているだけの方に関しましては、歌った後のうがいをきちんと行えば、痛みが取れる可能性があることを指導しています。

以上でございます。

#### ○三留委員

私も周年と研究発表会に幾つか行きました。すでに他の委員の先生から詳しくお話いただいたので、私から、簡単に感想を述べさせていただきます。

周年は、10月19日の東蒲小学校と、11月2日の志茂田小学校の式典に参加をさせていただきました。どちらも、子どもたちのお祝いの言葉の呼びかけや合唱がすばらしく、しっかりとした態度で式に参加していて、節目にふさわしい式典と感じました。

それから、地域の皆様も来賓として多数参加していただいて、皆様の学校に対する温かい思いというのを感じました。これから地域と学校が協働していろいろな活動を進めていくという中で、よい雰囲気の中で学校運営がなされていると感じました。

研究発表会では、大森第一小学校、大森第三中学校、それから田園調布小学校の三つ研究発表会に参加をいたしました。大森第一小学校の研究は指導内容に特色がありました。大森第三中学校は、指導体制に、田園調布小学校は、指導方法に特色があると思いました。

どれもすぐれた研究をしているということを感じました。大田区が進めている教育研究推進校が、教育界の趨勢だとか学校の実態を考慮して、すばらしい研究に取り組んでいるということを改めて感じました。参加した先生たちも、とても参考になったのではないかと思います。

一つ、講師の先生の話でちょっと印象に残った話をさせてもらいたいと思います。大森第一小学校の末吉先生という講師の先生がおっしゃったことなのですけれども、カリキュ

ラムデザインというのはできているのですが、カリキュラムマネジメントまでではない学校が多いというお話がありました。

自分たちが行っているすばらしい研究とか論理というのはあると思うのですが、それを教育課程の中に生かしたり、日々の授業に生かしたりしていかなければならないと思っています。ぜひ、カリキュラムマネジメントということを意識して、学校教育の充実を図ってもらいたいと思いました。

#### ○教育長

よろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は「部課長の報告事項」でございます。

#### ○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

#### ○学務課長

私のほうからは、令和2年度新入学にかかわる指定校変更及び区域外就学について、ご報告をさせていただきます。

皆様ご承知のことかとは思いますが、大田区は、指定校制度というものを取っておりまして、一定の居住区域の中で指定された学校に入学をするというような制度になってございまして、実情に応じて、事情に応じて指定校を変更することができるというような運用をしているというところでございます。区域外就学につきましては、大田区外からの就学ということで、後ほど説明しますが、大田区では認めておりませんが、そちらもあわせてご報告をさせていただきたいと思っております。

資料の説明に入ります前に、まずは概況というか、大田区全体のところをお話させていただくと、大田区全体の新入学児童・生徒数というものは、近年、小中学校合わせて、毎年8,400人から500人程度の入学がございまして、傾向としては微増傾向ということになってございます。

これらに伴いまして、令和元年度、今年度、新入学児の指定校変更の申請でございまして、小中学校合わせて1,538件ございました。前年度は1,528件ということでございまして微増でございまして、その前の年は1,578件ということでございまして、全体的から見ると、少し指定校変更の申請については微減の傾向なのかなというふうに考えてございます。

学校の状況といたしましては、集合住宅の建設等により、児童・生徒数の増加等が予想される地域があること、それから、施設規模が限界となっている学校、教室数等が限界となっている学校があるなど、特に小学校で指定校変更による受け入れが困難な学校というものが増加しているという傾向でございまして。

これらを踏まえまして、令和2年度の指定校変更申請に関する基本的な対応について定めさせていただきました。資料の1番をご覧くださいと思います。

基本的な考え方でございますが、指定校変更は、当該校の在籍する児童または生徒の人数及び学級数を考慮して、適正な運営が確保されるよう、受け入れ可能人数を定め、その範囲内で変更を許可するということ。

それから、2番目といたしましては、受け入れ可能人数から通学区域内の入学予定者数を除いた人数を許可可能人数とする。そして、指定校変更を希望する児童または生徒の数が許可可能人数を超えたときは抽せんとする。抽せんとして、入学希望者を決定するということ。

それから、許可可能人数は、小学校は1月下旬、中学校は2月中旬、通学区域内の入学予定者数をもとに設定をさせていただくということ。

それから、通学区域内の児童及び生徒数が施設上の限界に近づいている等の事情がある場合には、当該校の通学区域内に居住する児童または生徒を対象に、特別な措置を講じる場合があるとしてございます。これも後ほど説明させていただきます。

5番といたしまして、大田区内に居住していない児童または生徒の就学は原則として許可しないと。

このような五つの考え方に基づいて、令和2年度の取り扱いについてお話をさせていただきたいと思います。

それでは、2番の小学校の学校別の取り扱いということで一覧表になってございますけれども、こちらについて、三つの内容がここの中に含まれてございます。

まず一つ目の受け入れ停止でございますけれども、これは、通学区域内の児童しか、もう受けることができないぐらいの学校のキャパシティで、こちらに書いてある山王小学校、池雪小学校、梅田小学校、この3校が受け入れ停止に該当しているというところでございます。

そして、その後、65人制限をかけるところ、75人制限、95人制限、110人制限、130人制限、150人制限というふうに、人数により制限をかけさせていただいている学校が26校ございます。

これ少し受け入れ可能人数というところに誤解があるといけませんので、少し補足をさせていただきますと、例えば、65人の制限をかけさせていただく6校については、通学区域内の方でもう60人いたとすれば、残り5人の生徒についての受け入れを、抽せんをするなり、決定をしていくというようなことになっておりますので、この表記に書いてある人数のあきがあるというものではございませんというところは、あわせて補足をさせていただきます。

そして、1枚めくっていただきますと、中学校の学校別の取り扱いということになっておりまして、3番でございますね、こちらについては、学校の受け入れ停止をする学校はないのですけれども、これらの9校において受け入れ人数の制限をさせていただき取り扱いとしてございます。

状況といたしましては、令和元年度と比較いたしますと、こういったような受け入れの制限をする学校が小学校6校増えたことになりまして、中学校では3校増加することになるというような状況でございます。

そして、1枚おめくりをいただきまして、池雪小学校の特別措置についてご説明をさせていただきます。池雪小学校につきましては、児童数が増加し、施設上の限界が近づいているということでございますので、少し特別措置を取らせていただいております。

一つ目は、平成28年4月1日に実施しました通学区域変更に関するものということでございます。こちらの地域については、28年の4月いっぱい通学区域を変更しておりますけれども、通学変更する前からその地域に居住をし、ご兄弟の方が引き続き通学区域変更前の学校に通学、または弟、妹である新入学児童もご兄弟と同じ学校へ通学を希望する場合については、同校の指定校変更申請を許可するというような取り扱いをしてございます。いわゆる、変更する前にその区域に住んでいた方で、ご兄弟が通われている方については、その方のご兄弟も許可をするというように特例措置をしてございます。

令和元年度では、希望した方が8名おりましたけれども、その方については許可をさせていただいたというところでございます。ちなみに、令和2年度の進入学児童では、5名の方が対象者ということになってございます。

二つ目の特例措置でございますが、池雪小学校の通学区域内に居住し、指定校変更を希望する児童への特別措置。いわゆる、指定校の通学区域が池雪小なのだけけれども、違う学校に指定校変更をしたいという方についての取り扱いでございます。これは、同校の通学区域内に居住し、指定校変更を希望する児童については、希望先の学校へ優先的に入学を許可するという取り扱いをしてございます。なお、池雪小学校学校区域内から指定校変更希望児童のみで希望先の学校の許可人数を超えてしまった場合は、その児童だけで抽せんを行うというような取り扱いをしてございます。

これら二つの特例措置について、池雪小学校では設けさせていただいているというところでございます。

全体を通じまして、今後のスケジュールでございますが、令和元年12月6日に就学通知書を発送させていただき、12月13日から指定校変更の申請の受け付けを開始するというようにしてございます。これらの受け付けについては、1月10日まで受け付けをいたしまして、その時点の申請者数に基づいて、抽せんをするかどうかというのを学校ごとに判断をさせていただき、そのような取り扱いでまいりたいと考えてございます。

また、区民の皆様への周知でございますけれども、大田区報の12月11号で行うと同時に、大田区ホームページにも掲載をしたい、このような形で進めてまいりたいと考えてございます。

以上、雑駁ではございますが、私からの説明とさせていただきます。

#### ○教育長

ただいまご報告をいただきました。

ご報告に対しまして、ご意見、ご質問はございませんか。

#### ○深澤委員

基本的な考え方というところと、池雪小学校についての特別措置というのは、昨年度と変わらない、例年と変わらないという理解でよろしいですか。

○学務課長

昨年と変更してございません。

○深澤委員

わかりました。結構です。

○教育長

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、これをもちまして、令和元年第11回教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後 2 時45分閉会)